

南部地区小中一貫教育学校建設基本構想 (ダイジェスト版)

諏訪市教育委員会
令和6年8月22日策定

この基本構想は、南部地区の学校教育の理念や目指す姿、学校建設に関する基本的な考え方について整理し、令和6年度以降に予定している南部地区小中一貫教育学校建設基本設計・実施設計に反映させるために策定しました。

南部地区の小中学校の現状

資料1

項目	学校	四賀小学校	中洲小学校	諏訪南中学校
建築年		昭和43年築	昭和48年築	昭和60年築
ハザードマップ		土砂災害警戒区域(急傾斜) 土砂災害特別警戒区域	浸水想定区域 ^{※1}	浸水想定区域 ^{※1}
大規模改修		喫緊に必要	近い将来必要	今後段階的に必要

※1 中洲小、諏訪南中は、浸水想定区域ですが、諏訪市内の平地はほとんど想定区域に入ってしまう、諏訪市特有のケース。

現地建替え

防災上困難

可能

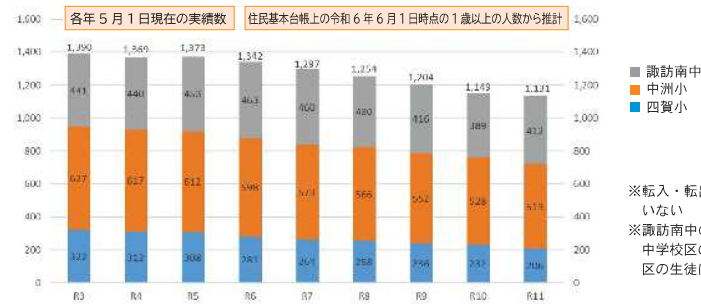
可能



- ◇四賀小学校、中洲小学校とも、建築年数が50年を超え、老朽化が激しくなっており、大規模改修や建て替えの検討が喫緊の課題となっています。また、四賀小学校の現地建替えは、防災上困難な現状です。(資料1)
- ◇諏訪南中学校は、建築年数が40年を迎えることから、校舎の長寿命化を図るための施設整備を段階的に行っていく時期に入っています。(資料1)
- ◇南部地区の小中学校児童生徒数は、令和元年度に1,405名でしたが、令和5年度は、1,373名とわずかな減少にとどまっています。今後の推計では緩やかな減少が予測されますが、商業施設の開発や宅地化などの影響により、他地区に比べ、しばらくは急激な減少はないものと考えます。(資料2)

南部地区小中学校児童数

資料2



※転入・転出等の社会的要因は加味していない
※諏訪南中の推計に関して、現在の諏訪中学校区の武津区・細久保区・普門寺区の生徒は除く

小中一貫教育の目指すもの

小中一貫教育の目的と基本計画の概要

小中一貫教育の目的は、義務教育9年間を連続した教育課程としてとらえ、児童生徒、学校、地域の実情を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることです。

諏訪市では、平成31年3月に「未来創造ゆめスクールプラン 基本計画」を策定しました。本計画の骨子は、次のとおりとしています。

- ①小中一貫教育を前提とした教育課程を推進する学校づくりに取り組みます。児童生徒の多様な学びや諸活動を可能にする教育環境を整備するとともに、一定の学校規模を確保することを重点とする学校再編事業を推進します。
- ②児童生徒、保護者、地域住民の声を大事にし、共通理解を図りながら進めていきます。
- ③市内の小学校区を大きく3ブロック(東部地区・南部地区・西部地区)に分け小中一貫教育を進めることとし、将来的に、施設一体型の小中一貫教育学校3校を目指していきます。

諏訪市の小中一貫教育の特色

次の5点を共通の重点として、小中学校で取り組んでいます。

- ◇高学年(5～6年生)の複数教科で、教科担任制を取り入れます。
- ◇教科内容等のつまずきを、学年間をつなぐジョイントカリキュラムで解消します。
- ◇「伝え合う力」※2を育む授業をします。
- ◇児童生徒のアイデアを積極的に取り入れながら異年齢交流を推進します。
- ◇児童生徒一人ひとりの「教育的ニーズに応じた支援計画」を基にした特別支援教育を進めます。

※2 相手や自分の意見・考え方を正確に理解しあう力

これらを踏まえ南部地区に諏訪市で初となる、施設一体型の小中一貫教育学校の建設を目指します。

“「そろえる」教育から、「伸ばす」教育へ” 南部地区小中一貫教育学校の教育コンセプトと施設整備

教育コンセプト



- ◇自分の意見や対話が大切にされ、自分たちが考えたことを実現する機会の充実
- ◇インクルーシブ教育^{※3}の推進
- ◇ICTやAI技術の活用
- ◇一人一人の多様性を前提に、多様な教育ニーズがある児童生徒に応じた学びの充実により、学力・体力や自己肯定感、非認知能力等の向上
- ◇自分を尊重し、周りの人と尊重し合える関係の構築
- ◇世界に目を向け、グローバルな視野をばぐくむ学びの充実
- ◇ふるさと諏訪への愛着がもてる学び
- ◇教室以外の学びの場、学校外の学びの場との緩やかにつながる環境の工夫
- ◇多様な専門人材の連携
- ◇コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の充実
- ◇四賀小学校、中洲小学校、諏訪南中学校の特色を生かす 等

※3：障害の有無にかかわらず、全ての子どもが自分に合った合理的配慮を受けるとともに、共に学級で学ぶ機会を増やすことを目指す教育

施設整備の方向性

新しい施設一体型の小中一貫教育学校の教育コンセプトに基づき、児童生徒の多様な学びや諸活動を可能にする教育環境の整備を行うとともに、地域の方々の災害時の避難拠点など重要な施設となる点も考慮して、次のとおり整備の方向性を定めます。

学習環境整備

- ◇1人1台タブレット・各種ICT機器に対応し、個別・少人数学習活動等、多様な学習活動が展開できる教室空間
- ◇地域の方と連携、協働する環境スペース
- ◇日常的に小中学生が集い、関わり合えるミックスゾーン
- ◇可動間仕切り、可動設備の設置など、高機能、多機能で変化に対応できる空間
- ◇エレベーター、スロープ、トイレ等、バリアフリー・ユニバーサルデザインの導入
- ◇教職員多目的スペース等、教職員が働きやすい学校としての機能向上が図れる空間
- ◇多様化する未来を見据え、柔軟な運用が可能な施設整備
- ◇読書・学習・情報のセンターとなる図書館の充実他



地域に開かれた施設

- ◇地域の方々が生涯学習の場などでも活用できる施設整備
- ◇防災教育にも活用できる災害時の地域避難拠点として防災機能を有した施設整備



通学・周辺整備

- ◇スクールゾーン、歩道橋の整備の検討
- ◇通学路、周辺道路の安全対策、安全整備
- ◇通学支援（スクールバス）の導入の検討
- ◇放課後児童クラブの整備の検討



学校敷地

- ◇諏訪南中学校の敷地を活用した再編整備
- ◇児童・生徒数の推計に基づく面積の確保
- ◇限られた敷地を有効活用するとともに可能な限り周辺敷地の確保を目指す

跡地

- ◇四賀小学校、中洲小学校跡地の有効活用の検討

整備予定地（現諏訪南中学校敷地）



施設一体型の小中一貫教育学校を整備することを踏まえて、必要となる敷地の確保について検討します。

◇所在地 諏訪市中洲 3005
面積 23,936 m²



基本構想策定までの経緯

- ・諏訪市立小中学校のあり方検討委員会の立ち上げ（H26.2）
- ・諏訪市立小中学校のあり方に関する提言書（H28.2）
- ・未来創造ゆめスクールプラン基本構想（H30.3）
- ・未来創造ゆめスクールプラン基本計画（H31.3）
- ・ゆめスクールプラン推進委員会（南部地区第1期）設置（R元.5）
- ・次期重点地区を南部地区とすることを総合教育会議で決定（R3.3）
- ・城北小学校、高島小学校閉校（R3.3）
- ・上諏訪小学校閉校（R3.4）
- ・すべての中学校区が小中一貫教育学校として開始（R5.4）
- ・南部地区に施設一体型の小中一貫教育学校を建設する方針を表明（R5.6市議会定例会）
- ・ゆめスクールプラン南部地区推進委員会設置（R5.8）
- ・南部地区小中一貫教育学校建設基本構想策定（R6.8）



諏訪市ホームページにて、「南部地区小中一貫教育学校建設基本構想」が確認できます。（QRコード及びURL参照） URL：<https://www.city.suwa.lg.jp/soshiki/27/59000.html>

